



特定非営利活動法人
雨水市民の会

理事長 徳永 暢男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1
TEL : 03-3611-0573 FAX : 03-3611-0574
H.P : <http://www.skywater.jp/>
e-mail : office@skywater.jp

特定非営利活動法人

雨水市民の会の活動がスタート

7月8日、雨水市民の会が発展的に解散

去る7月8日(土)すみだ環境ふれあい館において、「任意団体としての雨水市民の会」の最後の総会が開かれました。

総会に先立ち、雨水利用の国際協力担当幹事である今関久和幹事からバングラデシュでのスカイウォータープロジェクトのこれまでの取り組みと成果に関して報告がありました。その後、早速議事に入り辰濃和男会長の挨拶の後、2005年度の活動報告と会計監査報告が行われ了承されました。次に、村瀬事務局長から雨水市民の会の特定非営利活動法人化の取り組みについて、これまでの経過が報告され、次の2点が承認されました。

1. 2005年度の総会で雨水市民の会の特定非営利活動法人化が議決されたことを受け、法の手続きに従い、幹事全員で特定非営利活動法人雨水市民の会のための理事会を結成し、定款、設立趣意書、予算、組織について議論を重ね、3月29日に東京都に特定非営利活動法人化の申請をおこなった。

2. 雨水市民の会はこの総会をもって解散となるが、雨水市民の会の財産は新たな特定非営利活動法人雨水市民の会へと引き継ぐこととし、雨水市民の会の次年度への繰越金についても、特定非営利活動法人雨水市民の会の借入金及び寄付金として処理していく。

これを受け、雨水市民の会が正式に解散となり、「特定非営利活動法人雨水市民の会」として新たにスタートを切ることになりました。なお、雨水市民の会繰越金を特定非営利活動法人雨水市民の会の借入金及び寄付金として処理していくこととし、雨水市民の会の小林容三、山本博子会計監査が引き続き監査に当たることになりました。

最後に、徳永暢男理事長から辰濃和男会長に、これまで会を育てていただいたことへの感謝の心を込めてささやかなプレゼント(洋傘)を差し上げました。総会終了後は懇親会を開き、新たな旅立ちをみんなで喜び合いました。



辰濃会長が「雨を活用することが当たり前になる社会、雨に対して謙虚である社会となることを祈る」と挨拶。

目次

P 2	特定非営利活動法人の認証取得と登記完了
	・ホームページ刷新に向けてスタッフ募集!
P 3	2006環境ふれあいまつり(9月30日&10月1日)に行ってみよう
P 4	市民の会のスカイウォータープロジェクト、世界水会議「北京」で発表
	・ベルシャ語版「やってみよう雨水利用」イランで出版
P 5	バングラデシュの実情にあったタンクづくりを! 利用実態調査を実施
	・スカイウォータープロジェクトに参加して
P 6	京都からの便り「タカラモノ」を探そう
	・あまみず公開セミナー記録集「雨に夢を」CD版完成
	・雨と文芸「第3号を送ります」
	・雨の絵本「ふるばから」あめのひのピクニック

特定非営利活動法人の認証取得と登記完了

7月27日、東京都から待ちに待った認証が下りました。これを受け、すぐに登記の手続きをし、8月4日に特定非営利活動法人雨水市民の会の法人登記が終了しました。登記事項は、法に従った書き方で少々硬い言い方となっていますが、次のとおりです。今後は、この登記の目的を達成するために、志を新たに第一歩を踏み出していきたいと思えます。

目的

この法人は、広く一般市民を対象として、子どもから大人までの雨に関する普及・啓発、雨の文芸など雨に関する調査・研究、雨水の活用技術の開発やその設計と施工のための技術者養成、雨に関する情報発信や出版及び雨水の活用による国際貢献事業を行うことで、地域環境の保全を図るとともに、雨水をためて活かす取り組みを地域から世界へ広げることによって、21世紀の水危機を打開し、もって、平和で持続可能な社会の実現に寄与することを目的とします。

活動内容

- 1 社会教育の推進を図る活動
- 2 まちづくりの推進を図る活動
- 3 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- 4 環境の保全を図る活動
- 5 災害救援活動
- 6 国際協力の活動
- 7 子どもの健全育成を図る活動
- 8 科学技術の振興を図る活動
- 9 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

事業

- 1 雨に関する普及・啓発事業
- 2 雨に関する調査・研究事業
- 3 雨に関する情報発信・出版事業
- 4 雨水の活用に関する技術開発及び技術者育成事業
- 5 雨水の活用による国際協力・支援事業
- 6 雨水の活用による災害救援事業
- 7 その他この法人の目的達成のために必要な事業

ホームページ刷新に向けて

雨水市民の会が特定非営利活動法人として新たなスタートを切ったのに伴い、ホームページを刷新していこうと考えています。そのポイントは4つです。

分かりやすさと見やすさ

アクセスしてみたら難しそうで中をのぞいてくれないようでは困ります。したがって、最初の画面が鍵を握っています。特定非営利活動法人となった雨水市民の会の紹介にしても、どんな会なのか、何を目標しているのか、そのためにどんな活動をしているのかが一目でわかるようにしていく必要があります。

とにかく目新しさ

これまでの私たちのホームページには、この点があまりにも不十分でした。あまみず公開セミナー、雨の文芸チーム、雨の環境学習及び雨を活かした国際協力事業など、会の活動の最新情報を発信することが必要です。これまで紹介してきた雨

スタッフを募集します

を活かす国内外の活動事例も全面的に刷新していかなければなりません。

情報の豊富さ

雨を活かす知恵、雨と文化など、とにかく雨に関することなら雨水市民の会のホームページにアクセスすればなんらかの手がかりが得られる。いろんな雨の仲間ともつながることができる。そんな雨に関する人と情報のネットワークの宝庫にしていくことが必要です。

海外への発信

海外に雨水ネットワークを広げていくために日本語のみならず英語の部分も充実させていく必要があります。

理事会では、プロの力を借りながらホームページを刷新するとともに、その管理体制も強化していきたいと考えています。そこで、スタッフを募集します。ホームページづくりの経験がある方、雨の情報収集に関心がある方、事務局にご連絡下さい。



に行ってみよう

当日のお手伝いも募集!

昨年の雨水東京国際会議の第2会場ともなり、市民の会が積極的に関わって2001年に開設した雨水資料室のある「すみだ環境ふれあい館」で、環境ふれあいまつりが9月30日(土)と10月1日(日)に開催されます。主催は、当館の企画運営委員会と墨田区です。この企画運営委員会は、環境ふれあい館発足当初からあり、会長に徳永理事長、委員として松本理事、上林理事、原田会員も参加しています。

環境ふれあい館5周年を記念し、今後地域の人たちとともに環境のこと、雨のことなどを考え、ともに育てていく環境ミュージアムを目指していくための交流イベントです。雨水市民の会も、映画「プージェー」(同封チラシ参照)の上映をはじめ盛りだくさんの事業を企画しました。ぜひご家族や友人などおさそいあわせの上、御参加ください。また、当日のみのお手伝いも募集しております。御協力していただける方は事務局までお問合せください。

雨水市民の会が行う催し

9/30(土)映画鑑賞「プージェー」

同封のチケットで前売券料金となります。お手伝いの方は最終の上映が無料で見られます。

10:20 ~ 12:40 ~ 15:00 ~ 17:35 ~ (と には関野吉晴スペシャルトークがあります)

10/1(日)世界一受けたい雨の授業

会員の原田龍彦さん、人見達雄さんの授業があります。

10:00 ~ 「雨はどこから来るの?」(気象予報士・原田龍彦)

ペットボトルの中に雲をつくる実験などをして、地球を循環している水の姿を探り、日本に降る雨の由来をたどる。

11:00 ~ 「きれいな雨が地球を救う・立体電気紙芝居」(酸性雨調査研究会・権上かおる)

雨は天然の蒸留水。どうして汚れるか、どうしたらきれいになるか。雨を「地球の涙」としないために考える。

13:00 ~ 「汚れた雨をきれいにしよう、イザというときのチエ」(環境衛生監視員・人見達雄)

大きな災害で水道が止まってしまったら...。水道がなくても雨は降る。身近な水をきれいにして飲めるチエを伝授。

14:00 ~ 「雨水で遊ぼう」(気象予報士・原田龍彦)

ペットボトルでつくる渦巻き時計や竹の水鉄砲など、楽しく遊ぼう。

両日開催

雨の絵本ひろば：環境に親しみ、人との関わりを深められる絵本のコレクション。大人でも楽しめる。

30日11:30 ~ 読み聞かせ、工作 1日10:30 ~、15:00 ~ シャボン玉であそぼう

1日11:30 ~、13:30 ~ 読み聞かせ、ペープサートなど

バン格拉デシュ・チャイカフェ

バン格拉デシュのお茶「チャイ」を飲みながら、現地での

雨水市民の会の活動などを写真展示

雨粒実験装置の展示

空から降ってくる雨粒の形が実際に見られる

雨水探検隊活動報告展示：「たんぼとピオトープ」

その他、地元の自治会が行うフリーマーケット、雨水利用事業者の会が行う雨水タンクガイドツアー(ふれあい館の家庭用雨水タンクの案内)、すみだリサイクルの会が行う「牛乳パック紙すき・コースターづくり」、雨の書道展(雨水を使って墨をすり、雨の言葉を書く作品展)など、まだまだ紹介しきれないものがいっぱいです。



市民の会スカイウォータープロジェクト 世界水会議in北京 で発表

2006年9月11日北京において開催される第5回IWA会議(世界水会議)の中で、第2回目の雨水ワークショップが開催されます。今回のテーマは雨の貯水と管理で、主に都市での雨水対策と安全な飲料水確保のための方策が取り上げられます。座長は前回(2004年モロッコ・マラケシュで開催)同様、マイケル・ローズ前IWA会長とポール・ライターIWA常務理事です。村瀬事務局長がスカイウォータープロジェクトのこれまでの成果を発表します。また、ネパールからは雨水市民の会のパートナーであるNPO・ENPHOのマクハン・マハルジャン氏が、ネパールの飲用地下水のヒ素汚染とその対策としての雨水の活用について発表し

ます。他に、併催のポスターセッションではバングラデシュでのパートナー研究者であるバングラデシュ工科大学助教授のマヒズル・ラーマン氏が雨水の有効活用における集水、貯水及び利用に関するシミュレーション結果について発表します。

また、今回のワークショップと連動して、中国の水利学会主催で都市の洪水と渇水対策をテーマに雨水の国際会議が開かれ、村瀬事務局長、韓国のハン教授が招待講演することになっています。今回の北京での国際会議で雨水の有効活用に関する研究課題が集約され、世界の産官学民における研究者や技術者の雨水ネットワークが広がることを期待したいと思います。

ペルシャ語版「やってみよう雨水利用」 イランで出版

2006年7月末にイランからペルシャ語版の「やってみよう雨水利用」が送られてきました。翻訳したのは、イランの土木技術研究者のアクバリ氏(Mohammad Hosein Akbari Feizabadi)です。同氏は約1年をかけて翻訳しました。きっかけは、2004年にシンガポールで行われたAPO(アジア生産性機構)主催の水資源と管理に関する国際セミナーの参加者として招待されたアクバリ氏が、講師として招かれた村瀬事務局長の雨水利用の講義を聞いたことでした。アクバリ氏がテキストの一部に使われた英語版やってみよう雨水利用、「Rainwater & You」に興味を持ったので、村瀬事務局長がペルシャ語の翻訳の話を持ちかけたのです。

出版の経費については、独立行政法人国際協力機構(JICA)が全面的にサポートしてくださいました。イラン現地事務所の中山さん、またJICA地球環境部第三グループ水資源・防災第一チームの景山さん、永石さん、そして安達チーム長には心からお礼を申し上げます。

ペルシャ語版はイランだけでなくアフガニスタンでも読むことができるそうです。「戦車のタンクより雨水のタンクを」もっと普及させたいものです。この本が平和にも一役買ってくれることを願って止みません。

これで「やってみよう雨水利用」の本は、英語、韓国語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語、ベンガル語(一部翻訳)及びペルシャ語の、7ヶ国語で出版されたこととなります。



Bangladeshの実情にあったタンクづくりを！

利用実態調査を実施

- スカイウォータープロジェクト報告 -

今回、8月5日から12日まで徳永理事長、村瀬事務局長、荒井会員と今関理事の4名で Bangladeshへ行ってきました。この訪問の第一の目的は、雨水タンクに関するアンケート調査を各NPOにお願いすることでした。

これまで Bangladeshで行われてきた政府や大きなNPOの雨水利用は、与える形式の援助が多く、タンクの容量やデザインなどが本当に住民のニーズにあったものが作られているのか検証されていませんでした。今回のアンケート調査では、このような点を明らかにする目的で企画されました。6～7ヶ月続く乾季を乗り切するためのタンク容量やデザイン、また、資金面での援助方法なども対象としました。

ダッカの西方の都市、クルナを中心に5つのNPOを訪れ、調査を依頼しました。いずれのNPOも協力してくれることになり、およそ400件の調査

を実施できることになりました。おそらくこれまでこのような調査は行われたことがなく、これからの事業の貴重な基礎資料になると思われます。

あわせて、タンクを設置した住民への聞き取り調査を実施しました。また、現場で簡易水質検査を行いました。今後乾季の時期の調査とあわせて、雨水タンクの設計と管理マニュアルに反映させていきたいと思います。今回の旅では、新たな協力者も現れ、地域の詳細な雨量調査なども可能となりつつあります。

最後にもうひとつ。これまで現地で何回もお世話になっているガイドのワヒドさんが独立して新しい旅行会社を作りました。今後、 Bangladeshのすばらしい自然観光ツアーを組み込んだ、スカイウォータープロジェクトツアーも企画できるのではないかと考えています。

(今関久和)



スカイウォータープロジェクトに参加して

私は、地球環境問題に大変関心を持ってきました。とくに水問題は、「水危機」といわれ、生命にかかわる水が貧しい人々からどんどん遠のいています。1滴の水を得るのに大変な思いをしている人々が世界中にたくさんいます。そこで、雨水を飲み水に利用しようという『雨水市民の会』の活動に関心を持ちました。

中東を中心とした戦争やテロは、解決の糸口も見出せなくなっている中、自分は何が出来るのかと悩んでいたとき、昨年の雨水東京国際会議で『No more tanks for war, tanks for peace!』という言葉に出会いました。私も市民の会のスカイウォータープロジェクトに何らかの協力が出来たらと思い、市民の会に入りました。

そして今回、 Bangladeshでのスカイウォータープロジェクトに参加しました。首都ダッカを出ると、水田やため池、ジュートなどの畑が広がっています。池や川では泳いでいたり、洗濯をしていたり、雨季の Bangladeshは水が溢れていました。しかし、その水は衛生状態が悪く飲み水に利用できません。マラリアやデング熱などの病気も跡を絶たないと聞きました。

雨水タンクは想像していた以上に立派なものでした。職人の技術は高度です。ただ雨樋の習慣が無く、集水装置がお粗末だったり、タンクのふたに隙間があって、蚊などの虫が入りやすくなっていたりしました。私たちの水質調査の結果、雨水は蒸留水に近く、大変良質なことがわかりました。これが普及すれば今後水事情は大変改良されるでしょう。タンクを利用している住民から、腹痛や下痢の症状が無くなった話や、これまでの援助の中で雨水タンクが一番よいという話を聞いて大変うれしく思いました。これによって、 Bangladeshの人々の生活が大変改善されていることがよくわかりました。

今後も Bangladeshでの雨水タンク普及の協力をしていきたいと思えます。(荒井忠徳)



環境ふれあい館にある Bangladeshハウスに乾季にも使える大きなタンクが完成！タンクの絵を荒井さんが描きました。



京都からの便り

地域の「タカラモノ」を探そう

先日、京都のあるNPOに頼まれて、醍醐地区の子どもたちと「タカラモノ」探しの探検に出かけた。醍醐地区は京都市南部にひろがる伏見区の東部で、世界文化遺産に指定された醍醐寺をはじめ、明智光秀が最期を遂げた明智藪など、歴史のエピソードに事欠かない所だ。今回も、源平合戦の折、源三位頼政の危機をカラスの群れが救ったという話を、地元の人から「この小さな橋でのことです」と、聞くことができた。そして何より、行き帰りに使ったコミュニティバスは、市バスの廃止で地域の足を失った住民がワークショップを重ね、自分たちで路線まで決めて走らせた「タカラモノ」だ。

地域の「タカラモノ」なら墨田区にもいっぱいある。さしずめ路地尊はその代表だろう。課題は、大人がその

価値をきちんと認め、いかに子どもたちに伝えるかだ。福井県大野市では「子どもに教えるためにはまず大人から」と、大人が地域の「タカラモノ」を探し、地域の問題に住民とともに取り組む事業を始めている。熊本県水俣市頭石(かぐめいし)地区では、「タカラモノ」にあふれる地域を丸ごと生活博物館に見立て、住民を学芸員として、東京から修学旅行生を呼び入れている。どちらも「タカラモノ探し」が地元の人材育成につながったという。

子どもたちが、路地尊のつくられたいきさつを知るとともに、バングラデシュと墨田区の空がつながっていることに思いをめぐらす。素晴らしいことではないだろうか。
(山田岳之)



あまみず公開セミナー記録集
『雨に夢を』CD版 完成

昨年度までの、過去4年分の「あまみず公開セミナー」の主な講演会やフィールドワークを記録集としてまとめました。雨を愛でる - 雨と文芸、雨と風土、気象からみた雨、雨水活用術、フィールドワークの5分野からなり、多様な視点から雨を見つめて全166ページになりました。会員の皆様にとっては身近な雨の再発見につながればと思います。ご希望の方は



『雨と文芸』第3号を送ります

ようやく、「俳句(1)芭蕉・蕪村特集号」ができあがりしました。このニュースレターと一緒に送お届けします。データベースとしてだけでなく、雨の文学としての味わいもお伝えし、親しんでいただきたいと思っておりますが、毎回力量不足を思い知らされます。

力を貸して下さる方、声を上げてくださるのを待っています。
(雨と文芸チーム・糸賀)

事務局までFAXにてお申し込みください。(実費1,000円+送料140円)

(あまみず公開セミナープロジェクトチーム・柴)

雨の絵本ひろばから

- 2 -

「あめのひのピクニック」

<作 - ガブリエル・パンサン 訳 - もりひさし BL出版>

明日は楽しいピクニック。アーネストとセレスティーヌは前の晩にお弁当を用意して眠りにつきます。次の朝飛び起きたセレスティーヌにアーネストはいいいます、「きょうは出かけられないんだよ、どしゃぶりの雨なんだ。」がっかりして泣き出すセレスティーヌ。そのようすにアーネストは「そうだ、こうしよう。



ふたりとも今日はとってもいい天気だ、というつもりになるのさ。」ふたりはしっかりと雨具に身を包み、どしゃぶりの「いい天気」のなか、ピクニックにでかけます。

「くまのアーネストおじさん」シリーズの一冊です。ゴミ箱に捨てられていた赤ちゃんねずみを必死で育てるアーネスト(「セレスティーヌ」)。雨の中でテントを張りお弁当を食べながら、2人はいつもと違ったピクニックを楽しみます。ガブリエル・パンサンの表情豊かな絵と、何気ない会話から、セレスティーヌを包み込むアーネストの深い愛情が感じられ、大好きな一冊です。
(上林裕子)

編集後記：NPO法人となって最初の会報です。「あまみず」の題字(松本真理子さんがデザイン)もリニューアルして、雨から湧き出る様々なものがイメージできると思います。今後はさらに充実した国内外の雨に関する情報、技術、文化など、幅広い情報をお届けしたいと思います。皆様方の「おいしい情報」をお待ちしています。(Moning)